

被害粒発生が少なく早播適応性を有する 高醸造適性ビール大麦新品種「しゅんれい」

農産部

1 背景、目的

福岡県のビール大麦は「アサカゴールド」、「ミハルゴールド」および「ほうしゅん」の3品種がビール会社との間で契約生産されています。そのうち、「アサカゴールド」は、凸腹粒等の被害粒の発生により高い検査等級を確保できず、「ミハルゴールド」は醸造品質が優れるものの、やや晩生のために作付拡大は困難となっています。また、早生で醸造品質が優れる「ほうしゅん」は、高い検査等級を確保するために播種適期を11月下旬から12月上旬までとしています。

そこで、ビール大麦における播種適期幅の拡大と高品質安定生産を図るために、早生で醸造品質の優れる「ほうしゅん」との作付組合せが可能で早播適応性を有する新品種「しゅんれい」を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「しゅんれい」(旧系統名：九州二条16号)は、主要な育種目標を早生、高醸造品質、早播適応性、病害抵抗性として、平成3年に(吉系15×きぬゆたか)F5を母に九州二条11号を父として交配した組合せから育成された品種です。

本品種は平成16年に福岡県で準奨励品種に採用され、同年秋播きから工場規模での醸造試験のための栽培(初年度40ha、翌年度計画100ha)を開始しました。平成19年からは一般栽培への移行を予定しています。

「しゅんれい」は「アサカゴールド」と比較して、次のような特徴があります(表1、図1、2)。

- 1) 出穂期、成熟期とも1日早い早生、稈長は短く、穂数は多い。
- 2) オオムギ縞萎縮病には同程度に強く、うどんこ病に強い。
- 3) 収量重は同程度かやや低いが、千粒重は大きい。
- 4) 側面裂皮粒と凸腹粒の発生は標準播(11月下旬)早播(11月中旬)ともに極めて少なく、検査等級が優れ、これまでより10日の早播が可能。
- 5) 麦芽エキスとジアスターゼ力が特に高く、醸造品質が極めて優れる。

3 主要なデータなど

表1 「しゅんれい」の特性

品種名	成熟期 月.日	稈長 cm	穂数 本/m ²	うどんこ病	収量 kg/10a	同左標準比 %	千粒重 g	側面裂支粒率 %	凸腹粒率 %	検査等級	麦芽総合評点
しゅんれい	5.19	86	510	極強	374	96	43.4	0.9(2.2)	0.1(0.2)	2等/下	92.2
アサカゴールド	5.20	91	452	やや弱	390	100	39.6	0.3(1.2)	0.6(3.6)	2等/下	72.6
ほうしゅん	5.19	91	519	極強	386	99	39.0	1.0	0.0	外上上	90.1

- 注) 1.平成12～15年度の標準播(11月下旬)栽培における平均値
 2.被害粒の()内は11月中旬の早播栽培における値
 3.麦芽総合評点は高いものが良い

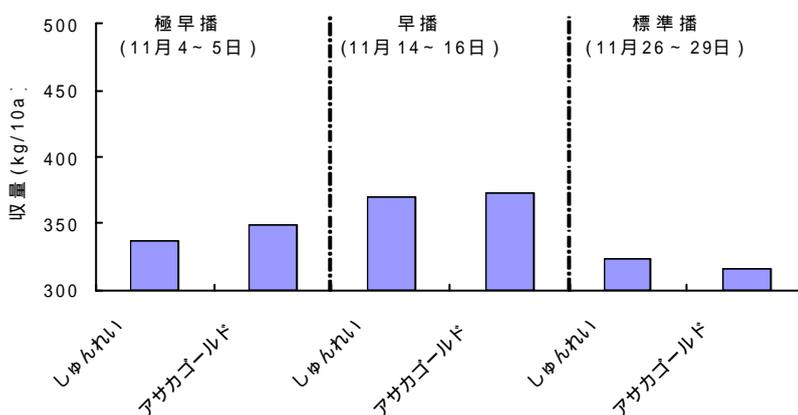


図1 「しゅんれい」の収量

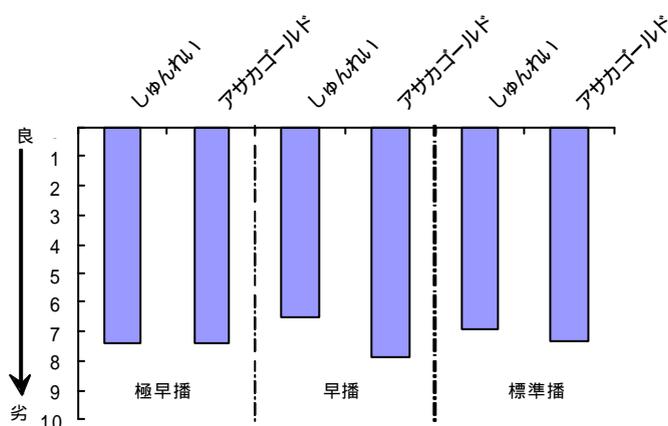


図2 「しゅんれい」の検査等級

- 注) 検査等級は1～3: 1等上-下、4～6: 2等上-下、7～9: 等外上上-下